

地域資源を活用した新しいフードビジネス_2025 —りんご産業の新たな可能性—

柴田学園大学 生活創生学部
フードマネジメント学科 1年
Green Craft (グリーンクラフト)
○佐藤万凜、長尾命、石岡壱梧、木立姫依

1. みどり戦略との関連性

- (1) 資材・エネルギー調達における脱輸入・脱炭素化・環境負荷軽減の推進
- (3) 資源のリユース・リサイクルに向けた体制構築・技術開発

2. 目的

私たちは、「りんごの廃棄量を減らす」、「りんご農家の収益を増やす」、「都市部や関西への青森県産りんごの消費拡大」などを課題に挙げています。現状、りんご自体の廃棄量はそう多くはありませんが、りんご残渣や商品となるりんごを作るために間引かれたりんごなどの廃棄量は依然として高いままであり、これらを含めての廃棄量を減らしたいと考えています。

3. 提案：廃棄物を活用した新商品の開発

廃棄となるものから商品を作った例としては「アップルレザー」があります。

「アップルレザー」はりんご残渣に樹脂を合成して生まれた人工皮革（ひかく）です。人工皮革は寿命が短く、天然皮革が10年は持つのに対し、人工皮革は2～3年でひび割れなどで寿命を迎えます。しかしながら、この「アップルレザー」は8年以上持ち、撥水性（はっすいせい）にも優れています。利用例として、財布、バッグ、パンプスなどに使われています。

革製品の物でいけば、ベルト（男女別）、男女両方が使えるキーホルダー、ノートブックや眼鏡ケースなど、まだ世の中にりんごの残渣を使った商品で出ていないものを制作出来たらよいのかと私たちは考えました。



appcycle_japan、appcycle株式会社のInstagramから引用、
<https://www.instagram.com/p/DNfixAKzFiZ/>

株式会社トラスト・ワン・サービスのホームページから引用、
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000002.000118240.html>

4. 波及効果

波及効果としては、りんご農家の収入増加があげられます。前項目の提案の恩恵で、「青森県産りんごの需要が増加する→りんごが売れるため農家の収入が増え→需要上昇により生産、流通量が増加し→農家の収入がさらに増える」のようなループを構成することで、農家の収入の増大が見込めます。

次に、りんご残渣、B級品の廃棄量削減が実現できます。商品にすることで廃棄量をどのくらい削減できるかは不明ですが4分の1程度は削減できると考えています。

5. まとめ

これらの提案がもし完璧に実現したとなれば、青森県には多数の貨幣が流れ込んでくることになります。そして青森県の財政事情が解決したならば、青森の経済発展、例えば最低賃金の上昇や県民の生産性の向上、各種インフラの整備など様々な恩恵が受けられることになります。